

用語	説明	解説
3 三つのT	Triage(トリアージ), Transportation(患者搬送), Treatment(緊急治療)	災害医療の緊急対応の3原則で、Triage(トリアージ), Transportation(患者搬送), Treatment(緊急治療:これを2番目に持つこともある)、からなる。(参考: トリアージ 、 こころのケア)
B B災害	生物毒災害のこと	(参考: NBC災害)
C CPR	心肺蘇生: cardio-pulmonary resuscitationの略	心肺機能の停止時に行う緊急処置(同じ略語であるが、全く別のもので、インスリン生成過程の副産物CPR: Connecting peptide immunoreactivityを意味することもある)
critical incident stress debriefing (CISD)	惨状ストレスに遭遇した患者への対応の一つ	惨状ストレスに遭遇した患者への対応の一つとして考えられている治療法として試みられているもので、話をきいて、精神的な負担を減らす方法。消防、軍隊等で行われることが多い。(参考: PTSD)
C災害	化学災害、中毒災害のこと	(参考: NBC災害)
D DMAT	米国の災害時医療派遣チーム	disaster medical assistant team 米国における災害時の医療班派遣システムの一つ
DIS	地震防災情報システム	地震災害時における被害の概容をすぐに計算する我が国のシステムである。内閣府に所属し、震災対策の充実・強化をはかることを目的として 阪神淡路大震災の反省のもと作られたもの。
F FEMA	米国危機管理庁	米国危機管理庁、連邦緊急管理庁などと訳される米国の公的機関。Federal Emergency Management Agencyの略。連邦レベルで、大規模災害時等に対処し、復旧までsupportする機関。カーター大統領の指示により設立。
I IAEA	国際原子力機関	国際原子力機関 を参照。 International Atomic Energy Agency (参考: フェルノプリ 、 国連)
J JICA	国際協力事業団	幾つかの部門からなるが、災害医療の観点からは、海外での大災害発生時に、被災国からの要請により援助隊を派遣する国際緊急援助隊、また開発途上国からの研修生を受け入れ教育・研修等を行っている。
N NBC災害	核災害、生物毒災害、化学災害の総称	BCR災害、ABC災害(Hazard)という呼び名ともほぼ同意義で用いられる。(参考: 核災害)
NPO/NGO	非営利団体・組織／非政府団体・組織の略	災害(医療)では、重要な部分を担う。1998年特定非営利活動促進法(NPO法)が成立した。
P preventable deaths	予防できる死亡	適切な医療対応がなされれば死なないですむ、すなわち予防できる死亡のこと。具体的には実際の災害時に、多数発生した死亡者数の内の、この予防できたと考えられる死亡者数を意味する。災害医療の目的として、この死亡数を最小とすることが重要で、そのためには、種々の面からの医療対応、中でもトリアージを含めた「3つのT」は重要である。
PTSD	posttraumatic stress disorderの略で災害に強く関連する重要な心的外傷の一つ	posttraumatic stress disorderの略で、強い精神的外傷にみられる最も重要な精神症状で心的外傷の一つ。従来より欧米では自然災害、戦争体験、事故、強盗や強姦などに遭遇した後、しばしばみられ治療対象とされていた。わが国では1995年の阪神・淡路大震災、東京地下鉄サリン事件後、多発し、注目されるようになった。心的外傷を受けた直後に生じる急性反応(急性ストレス反応(acute stress reaction or disorder;ASR/ASD)とは区別され、診断基準上は、1ヶ月後以上みられる遅発性(外傷経験から1、2週間ないし数ヶ月たってから発症してくる遷延反応)のことをいう。種々の精神的症状:体験状況の再現、悪夢、不安、憂うつ感、無欲、無関心、無力感、易怒、罪悪感、絶望感、不眠、錯乱、幻覚、心因性健忘、に加え、動悸、発汗など自律神経症状もみられる。抗不安薬、抗うつ薬など薬物療法、種々の精神療法がなされる。予防としての早期からのCISD(critical incident stress debriefing)が試みられることがあるが、その是非に関しては、意見が確定していない(精神的には否定的な意見も多い)。(参考: CISD)
S START(方式)	トリアージ方式の一つ	Simple Triage And Rapid Treatmentの頭文字をとったもので、特に病院前においても簡単に評価ができる方法として現在推奨されている。(参考: トリアージ)
W walking wounded	災害時の負傷者の内の、歩行可能な人	トリアージ上は、ほとんどは最軽症の緑タグの適応となる。地震等の大災害発生時は、負傷者の大多数を占めるため、円滑な対応が必要である。(参考: トリアージ)

用語	説明	解説
あ アンダーtri アージ	triアージの際、適切な基準よりも優先度を低めに判定する不適切な判断のこと	triアージによって負傷者の医療対応の優先順位をつける際に、適切な基準よりも優先度・緊急度を低めに判定すること。その反対をオーバーtriアージというが、アンダーtriアージの方がより緊急性の高い、重症例を見落とす可能性が出てくるので、より好ましくない(避けるべき)と考えられる。(参考: triアージ)
安否情報	無事かどうかの情報	災害時の被災者が、無事かどうかの情報であるが、災害時は、情報システムが輻輳し、通常の連絡手段が全く機能しないことが多いため、社会不安を増大させる要因となり、安否情報システムの役割は重要である。(参考: 災害時情報システム 、 輻輳)
い 遺体安置		大災害時には、多数の死傷者が発生する。死者への対応も重要であり、またtriアージで救命不能と判断され、黒タッグを装着される瀕死の患者にも個人の尊厳を重視した対応が必要である。阪神淡路大震災では、遺体の安置場所の不足、死体検案等の遺体への対応体制が不十分で問題を残した。(参考: 死体検案)
う ウイルス	細菌より小さい微生物	中心は核酸(DNAあるいはRNAのどちらか)と蛋白からなり自己複製可能な生命体。他の細胞(宿主細胞)のなかでしか増殖できず、多種多様な疾患や流行病の原因となる。増殖する宿主細胞により、動物ウイルス、植物ウイルス、細菌ウイルスに分かれる。天然痘(痘瘡)ウイルス、エボラウイルス、ウエストナイルウイルス、AIDSウイルスなどが、現在問題となっている。更に小さい生物としてプリオンがある。Virus(参考: 疫学 、 プリオン)
ウエストナイル熱	ウエストナイルウイルスによって引き起こされる疾患	蚊によって媒介され、鳥(特にからすが有名)、人、等に感染し、人では、脳炎を引き起こすと重症となる。以前よりアフリカ北部に常在してウイルスであるが、1999年米国、New York市周辺で流行し、その後全米に拡大した。米国のセントルイス脳炎、日本脳炎に近いウイルスとされる。治療法はまだない。(参考: ウイルス)
宇宙線	宇宙空間から地球に降ってくる放射線	各種のものがある。自然放射線の一部を占める。また高度が高くなると増加する。(参考: 放射線 、 自然放射線)
え 疫学	疾病の発生や分布に対し種々の因子の影響を研究する学問	人間(人間集団を対象とし、総合的な視点から、疾病の発生や分布に対して、生活様式・生物構成・個人的社会的な考え方などの因子が与える影響を分析し、健康改善・疾病予防を研究する学問であり、健康面における広い範囲を包括する医学である。災害医学上は、大規模感染症ではもちろん、放射能災害、有毒物質・環境破壊による健康影響等多くの分野に関連してくる。
疫学調査	疫学的な面すなわち病気の広がり状況等を観察するシステム	サーベイランスとほぼ同意義で、疫学的な面すなわち健康面における予防または治癒の観点から疾病の進展状況を観察、評価するシステム(参考: サーベイランス)
液状化現象	地震の揺れによって地面が液体状になるもの	本来は、硬い地面が、地震の揺れによって液体状になり、地盤沈下、建物崩壊をきたすものである。おこるしくみは、地震による強い地盤の振動で地盤の中の砂が揺すられ、地下の水が噴出するものとされる。阪神淡路大震災では、神戸港、六甲アイランド、ポートアイランドで発生し、建物が破壊され、地盤沈下した。(参考: 地震)
NBCテロ対処 現地関係機 関連機モデル	化学テロを含めたNBC災害時の最初の動きをモデル化したもの	NBC災害、特に化学テロに対する初動措置を中心に考えられたモデルの一つである。化学テロ発生時の現場における対応をわかりやすい典型的な例として考え、関係する多くの機関同士の連携を確保して、効果的な現場対処を行うという観点からみたものである。平成13年11月22日にNBCテロ対策会議幹事会(事務局、内閣官房副長官補付(安全保障、危機管理担当))名で出された。問い合わせ先として、内閣官房副長官補(安全保障、危機管理担当)付、防衛庁、消防庁、厚生労働省、海上保安庁、が示されている。(参考: テロリズム 、 NBC災害)
エボラ出血熱	エボラ出血熱ウイルスにより引き起こされる死亡率の高い感染症	エボラ出血熱ウイルスは、細長い形をしたフィロウイルスに属するウイルスである。我が国の感染症法では、最も危険な感染症の1類の一つである。このウイルスは、若干異なった3種あると考えられ、その内のアフリカ中部で発生がみられる2種(スーダン株、ザイール株)が人に感染し、重症となる。発症した際の死亡率は、80%、50%前後と考えられる。治療法はまだない。その他、マールブルグ病も類似疾患と考えられている。(参考: ウイルス)
エルニーニョ	南太平洋で発生する海面上層の温暖化	従来からいられている代表的な地球規模での異常気象の一つで、南太平洋で発生する海面上層の温暖化に始まり、全球的に長期間にわたって気象、農業に影響を与えるもの。全太平洋、インド洋上で数年毎に長期に(1年半以上)にわたって発生する。早魃、既設風異常、暴風などを引き起こす。
お 黄熱(病)	黄熱ウイルスによる重篤な感染症	アフリカや南米にみられる強い感染性を有する代表的な死亡率の高いウイルス疾患。ネッタイシマカによって媒介される。歴史的には、野口英世が本疾患の研究中に感染して死亡したことで有名である。肝、腎機能不全を起こして死ぬとされるが、予防接種が有効であり、流行地への旅行の際には注意が必要である。(参考: ウイルス)
オーバーtri アージ	triアージの際に、適切な基準よりも優先度を高めに判定すること	triアージによって負傷者の医療対応の優先順位をつける際に、適切な基準よりも優先度・緊急度を高めに判定すること。不正確なtriアージのひとつであるが、重篤な患者の見落としは防げる。その反対をアンダーtriアージという。(参考: triアージ 、 アンダーtriアージ)
汚染	体がよごれること	身体等がよごれが付着して、染まることであるが、災害医療の観点からは放射性物質・化学物質・細菌等の微生物によって汚れることにより、身体に悪い影響をきたす(可能性がある)こと、あるいは周囲へ広がって、害をなすことを意味する。また感染源が伝播し広がることも汚染と呼ぶ。(参考: NBC災害)
汚染スクリー ニング	有毒物質による汚染状態の有無・程度をチェックし段階付けすること	いろいろな汚染原因物質によって考えられている。放射能汚染に関しては、科学技術庁(旧、現文部科学省)作成のものがよく用いられる。

汚染物質	汚染の原因となる物質	
オフサイトセンター	原子力発電所の近辺(発電所外)に設置された原子力災害時の緊急対策本部用の施設	原子力災害時、災害対策本部としての緊急対策を行うための施設で、原子力発電所の近辺に設置されている。1999年の東海村臨界事故以後に作られた原子力災害特別措置法による。(参考: 原子力災害)

か

| 0-9・A-Z | [あ](#) | [か](#) | [さ](#) | [た](#) | [な](#) | [は](#) | [ま](#) | [や](#) | [ら](#) | [わ](#) | [🔍](#)

用語	説明	解説
ガイガーミュラー計数管	放射線の検出装置の一つ	
外部被曝	体の外から放射線が体内に通過すること	放射線に生体がさらされる状態の内の一つ。これに対し、体内から放射線にさらされることを内部被ばくという。(参考: 内部被ばく)
核、化学、生物災害	NBC災害と同じ	(参考: NBC災害)
核災害	原子力災害と同じ	
核燃料サイクル	原子炉の燃料となるウランを一度使用した後再利用するシステムであり、この流れ全体を核燃料サイクルという	鉱山からの採鉱からのウランの流れをごく簡単に示すと、1)採鉱→2)製錬(不純物を取り除き)、黄色のいわゆるyellow cakeとする→3)転換→4)濃縮(発電に用いられるウラン235を2-4%に濃縮する→5)再転換→6)整形加工(燃料としての最終段階で、ペレットと呼ばれる固形のものとする→7)発電(として初めて利用)→8)再処理: 燃え残ったウランと新生されたプルトニウムと残りくず(放射性廃棄物)の3つに分ける→前2者は、再利用に周り(3)転換、あるいは6)整形加工)ここで、核燃料サイクルとして完成する。残りくずは、放射性廃棄物(高レベルと低レベルがある)として貯蔵・処分される。東海村臨界事故では、この濃縮の過程での臨界事故と考えられる。
核分裂	原子核が分裂し、大きなエネルギーを出すこと	細胞が二つに分裂・増殖することと原子核が中性子等の照射によって分裂し、大きなエネルギーを出すことの両方の意味で用いられる。原子爆弾や原子力発電は、後者の核分裂の際に得られるエネルギーを用いたものである。(参考: 原子力災害)
確定的影響	放射線による生体への影響のしきみのひとつ	放射線による生体への影響に関して、生体への障害がでるのに、ある値以下の放射線では、みられない(この値をしきい値と言う)、このしきい値以上では、極めて高率に障害が出現・重症化すること。骨髄障害、皮膚障害、などの臓器でみられる早期の障害である。以前は、非確率的影響とも言われた。これに対し発ガン率の増加等は、(放射線の)確率的影響という。(参考: 確率的影響)
確率的影響	放射線による生体への影響のしきみのひとつ	放射線による生体への影響に関して、障害がでる確率が線量に比例すると考えられる状態のことをいう。発ガン、遺伝的影響等の晩発的影響の際に想定される。(参考: 確定的影響)
活断層	地震に伴ってみられる地表のずれ	活断層の存在は地震の発生元(震源)となるので、重要。兵庫県南部地震では、野島断層が有名。その他、我が国には無数の活断層があるとされる。(参考: 兵庫県南部地震)
感染	微生物等がヒトや動物の体内に入ること	ウイルス、細菌、菌類、などの微生物や寄生虫が、ヒトや動物の体内に入り、更に通常は、増殖すること。この状態を感染症といい、症状が出現した際(発症)は、顕性感染(発病)と言う。感染経路としては、接触感染、空気感染(天然痘、インフルエンザ、結核等)、飛沫感染(唾液の飛沫等から感染するもの)、経口感染(食物・水分類による感染)、媒介動物を介するもの、などがあり(経胎盤感染もある)、各病原体によっても、また感染される側の状態により異なる。症状が発症しないで終わる際は不顕性感染という。
ガンマ線	主要な放射線の一つ	主要な放射線の一つで、波長が短く、高いエネルギーをもつ電磁波。物質を透過する力が強く、防護するには厚い鉛の壁が必要となる。放射能災害時に最も問題となるものである。医療用・工業用等に用いられる。波長からみてX線との境界は明確でない。(参考: 放射線)
災害拠点病院	災害時に中心となって医療を行う地域毎に指定されている病院	阪神淡路大震災における災害医療体制の不備、特に災害時医療を提供する医療施設側の対応・準備が不十分であったことへの反省から、厚生労働省(当時の厚生省)の指導のもと1996年から開始された体制。現在500以上の施設が、地域災害医療センターとして指定され、その内の特に各県単位で中心となる施設を基幹災害医療センターとして、指定されている。
危機管理	危機一般に対する対応・体制	危機一般に対する対応・体制等であるが、災害時にも重視される。なお危機とは、危険な状態の起きうる状態のことと解釈されるが、実際に大災害等が発生した後の対応も危機管理に含めることが多い。
机上訓練	災害(医療)対応の訓練の一つ	災害(医療)対応の訓練の一つで、主な形としては一カ所に集まり、対応を種々の観点からねるもの。比較的施行容易で、多くの観点からの検討ができる利点がある。これに対して本格的な訓練は、総合防災訓練と呼ばれることがおおい。
机上シミュレーション訓練	机上訓練と同じ	
緊急被ばく医療	放射線災害時の緊急医療体制	放射線災害時の緊急医療体制を意味し、3段階からなる。初期の段階からみると、外来対応中心の初期被ばく医療、入院治療を想定した2次被ばく医療、更に専門的な医療を行う3次被ばく医療と分けられている。(参考: 放射線医学総合研究所)

ク	クラッシュ症候群	大量の骨格筋が長時間圧迫をうけたための障害により引き起こされる重篤な症候群	四肢・大腿等の骨格筋が大量に・長時間の圧迫等をうけることにより虚血等により筋障害が引き起こされるとその結果、局所・全身に異常を呈する症候群。局所の浮腫・壊死等や、全身症状としては、腎不全、その他の多臓器障害をきたして、高い死亡率をきたす。早期よりの血液透析・血液浄化法、集中治療により多くは救命可能と考えられている。以前より一部では、しられていた疾患であるが、特に阪神淡路大震災で多発し、注目を浴びた。挫滅症候群、圧挫症候群とも呼ばれる。類似疾患として、血管外科領域のMNMS、整形外科領域のcompartment syndromeがある。
け	検疫	国内に無い伝染病等を予防するための診断・検査・処置をすること	通常は、空港・港湾での検疫所でなされる業務で、国内に無い伝染病等を予防するための診断・検査をすることで、陽性の際には、適切な処置をすることである。実際には、特殊な検疫伝染病に罹患している人に対し一定の期間、アイソレーション(隔離)すること、感染地域よりきた船や飛行機の隔離などがあり、コレラ、ペスト、黄熱病、(痘瘡)が検疫する対象疾患である。quarantine
	原子	物質を構成する単位で、各元素の最小単位	原子核(陽性の陽子と中性子からなる)と周囲の陰性に荷電した電子からなる。核分裂では、この原子核内の陽子と中性子を結びつけている桁違いに強いエネルギーを放出させることにより、原子エネルギーが放出される。(参考: 原子力発電所 、 核分裂 、 核燃料サイクル)
	原子力安全委員会	我が国の原子力利用の安全確保を担当する委員会	現在は総理府の所轄であるが、以前は科学技術庁に属していた。
	原子力委員会	原子力の研究・開発・利用に関して決定する委員会	我が国では、原子力基本法にもとづき1956年総理府(現、内閣府)におかれた委員会で、原子力の研究・開発・利用に関して決定する。
	原子力災害	原子力発電所等における災害	IAEAでは、事象の国際評価尺度として、最も深刻な事故をレベル7(チェルノブイリ原発事故)からレベル0の安全上重要でない事象まで8段階に分類している。東海村臨界事故はレベル4(周辺への大きなリスクを伴わない事象)とされた。(参考: チェルノブイリ原発事故 、 スリーマイル島原発事故)
	原子力発電所	原子力による熱エネルギーを利用した電気を起こす工業システム	原子力を利用した原子炉で発生した熱エネルギーを利用した電気を起こす工業システムで、通常は、燃料としてはウラン235の核分裂(核分裂反応)を用いる。我が国には、約50の原子炉が現在ある。事故が起これば、放射能による大規模あるいは長期間の災害を生じる可能性がある。世界で起きた大事故(大災害)としては、チェルノブイリ、スリーマイル島がある。燃料としてのウラン利用に関しては、核燃料サイクルの概念が重要である。(参考: 核燃料サイクル 、 チェルノブイリ事故 、 スリーマイル島事故)
こ	ゴイアニア事故	ブラジルのゴイアニアで起こった大規模な放射線災害	1987年ブラジルのゴイアニアという地域で起こった大規模な放射線災害。セシウム137医療照射装置が盗難に遭い、周辺の住民が触れたため多くの被爆者と環境汚染をきたした。死亡4名、被ばく者数は、極めて多数と考えられる。また放射線恐怖症の患者も多数出現し問題となった。
	広域・災害救急医療情報システム	災害医療情報システムの一つ	平常時は救急医療施設からの情報収集等を行い、災害時は、総合的な情報収集・医療の提供を行うための情報システムで、ほぼ全国的に確立されてきている。本システムは、医療情報専用のシステムで、大地震の際には、地震防災情報システムDIS等と協力して対応することが期待されている。(参考: DIS)
	洪水	通常は水面下にある部分が水であふれること	降雨や雪解け水によって、地域の水量が増加する結果、通常は水面下にある部分が流水で覆われること。水害の代表的なもので、我が国では、鉄砲水や堤防の破綻による急激な(時間、日単位の)水面上昇を意味することが多いが、世界的には、週・月単位の長期間にわたる水位の上昇による洪水が多いとされる。関係する伝説としては、我が国では、やまたのおろち伝説、世界では、ノアの箱船が有名。
	厚生省防災業務計画	厚生(労働)省の所轄事務について、防災に関しとるべき措置等の基準を定めたもの	災害対策基本法、等にもとづき、厚生(労働)省の所轄事務について、防災に関しとるべき措置等の基準を定めたもの。第1編は、災害予防対策、第2編は、災害応急対策、第3編は、災害復旧・復興対策、第4編は、東海地震の地震防災対策強化地域にかかわる地震防災強化計画、となっており、各編毎に細かく分かれている。
	国際原子力機関IAEA	核エネルギーの平和利用を目的とした国連の機関	国連の機関の一つで、1957年に設立。核エネルギーの平和利用を通じて、世界に貢献することを目的とし、軍事目的に使用されないことの保証処置の実施をする。核施設の安全管理を指導し、事故の監視を行うが、非平和目的核(核兵器)の問題にはかかわらない。本部は、ウィーン、オーストリア。IAEA。International Atomic Energy Agency (参考: IAEA 、 チェルノブイリ 、 国連)
	国際消防救助隊	国際緊急援助隊の一員	JDR国際緊急援助隊の一員として、救助チーム等が、海外(主として開発途上国)において大規模な自然災害が発生した場合、被災国の要請におうじ出動し、人命の救出・救助を行う。
	国際赤十字委員会	国際赤十字・赤新月運動。世界中に広がる人道的な活動を行う大規模な組織	赤十字社または国際赤十字社は、世界中に広がる人道的な活動を行う大規模な組織で公式には国際赤十字・赤新月運動といわれる。3組織で構成されている。(1)国際赤十字委員会(International Committee of the Red Cross(ICRC))は、主に、紛争時に戦争犠牲者の保護や交戦中に中立的な媒介者として行動する。ジュネーブ上や空の守護神といわれている。(2)赤十字・赤新月社連盟(League of Red Cross and Red Crescent Societies(LRCS)):非紛争災害や自然災害時に行動する各国赤十字社の国際的な連盟。(3)各国毎の赤十字社および赤新月社:我が国の日本赤十字社は、法的にも国の災害対策の一部として組み込まれ、認められている。同義語として、ICRC

国際連合	国際機関で最も上位にあたる組織	第2次世界大戦後に生まれた国際平和を目的とした国際機関で最も上位にあたる組織。国際安全保障の維持、諸国間の友好親善の増進、国際機関を通じた国際問題の解決、各国の活動の調整等の目的があるが、災害医療に関しては多数の機関があり、IAEA国際原子力機関、UNESCO国連教育科学文化機関、WHO世界保健機関、WMO世界気象機関、IMO国際海事機関、UNHCR国連難民高等弁務官事務所、UNRWA国連パレスチナ難民救済事業機関、FAO国連食糧農業機関、国際災害救済調整官事務所、ITU国際電気通信連合、UNICEF国連児童基金、UNEP国連環境計画、世界食糧理事会等で、UNDROは自然やその他の災害に対する国連としての対応においては、その管理と調整の責任を負っている。
こころのケア／PTSD	PTSDの項目参照	(参考: PTSD)
コレラ	コレラ菌による重篤な消化器疾患	熱帯に多くみられるコレラ菌による大量水様性便、下痢、嘔吐、脱水、筋攣縮、脱力を呈する重篤な急性腸管疾患で、米のとぎ汁様の水様便が特徴的とされる。汚染した食物、便から感染。国際的防疫の対象疾患。江戸時代は、「三日ころり」といわれおそれられた。(参考: 検疫)

さ

| 0-9・A-Z | あ | か | さ | た | な | は | ま | や | ら | わ | ▶

用語	説明	解説
サーバイメーター	コレラ菌による	基本的には、放射線・放射能の有無・量を検出する装置で、使用する原理によって幾つかの方法がある。電離箱式サーバイメーター、GM(ガイガー・ミュラー)管式サーバイメーター、シンチレーションサーバイメーター、があり、各々の特徴がある。
サーベイランス(監視、調査)	疫学調査とはほぼ同意義	種々の伝染病等の動向に関する疫学的、かつ継続的な監視: 観察、測定、評価を行うことを意味する。疾病の原因・治療を含めた有効な対策を確立するための方策の一つである。最も一般的には、前もって決定されたルールにもとづいた感染症等のデータが公衆衛生当局に提供される受動的サーベイランスを意味するが、広義には、公衆衛生当局から積極的に医療施設へ報告を求める方式(能動的サーベイランス)も含めている。(参考: 疫学、疫学調査)
災害	大規模な異常な出来事によって、人・社会が大きく被害を受けること	一般的には、異常な出来事によって、人・社会が被害を受けることであるが、災害医学の観点からは、巨大な破壊的なできごとによって人と周囲の環境に極めて重大かつ急激な変化が発生し、外部からの大規模な援助が必須となるほどの非常事態をいう。なお、急激な変化ではなく、洪水の一部やかんばつ、難民問題のように徐々に生ずるものもある。(参考: 自然災害、人為的災害、化学災害、核災害、NBC災害)
災害医学	医療面からみた災害に対する学問	医療面からみた災害の予防、発生直後の緊急医療対応、災害によって発生するその後の中期・長期的健康問題などの解決を目的とした学問である。幅広い医学分野、たとえば、救急医学、外傷外科学、外科・整形外科、小児科学、精神医学、伝染病学、栄養学、その他の全ての臨床の専門医学分野、疫学、公衆衛生、社会医療学、地域医療学、国際的視野での健康衛生などの分野との協力のもとに行う(WHOによる)に加え、医療以外の他の分野の災害援助機関、団体などとの協力も含まれる学問、研究である。
災害救助法	大災害に際しての対応を定めた法律	1947年(昭和22年)に施行された法律で、大災害に際して政府が地方自治体、日本赤十字社、その他の団体および国民の協力をえて、緊急に被災者への救援・社会の秩序の保持にあたる。都道府県知事が、「救助を行うこととなり、救助の種類には、収容施設(仮設を含む)、炊き出し等による食料・飲料水の供与、衣服・寝具等の生活必需品の供与、医療・助産の補助、などを行う。また日常からの計画・施設の整備につとめることになっている。
災害サイクル	災害を一つのサイクルと考える概念	災害対策を考える上で、考えるべきとされる概念。災害発生直後(発災直後)の対応のみならず、その後の亜急性期、慢性期の対応に加えて、平常時(静穏期)にも対策を準備するべきとの考えである。すなわち静穏期は、次の災害発生前の時期と考え、全体を災害サイクルと名付けられている。
災害時情報システム	災害情報は災害時重要で、情報収集、連絡、その他に関し、各種の災害システムがある	災害時の情報システムは、1)災害情報の収集、2)被災情報の連絡、3)その他、に分かれる。災害情報の収集の方法としては、幾つかの公的な体制(広域災害救急医療情報システム、DIS、SPEEDI、etc)もあるが、一般民間人が利用できるものではテレビ・ラジオが中心となる。被災情報の伝達・連絡に関しては、民間用としては、電話、Internet、があるが、災害時には、携帯電話も含め、多数の同時利用による輻輳のため使用不能となる。災害用には、災害時優先電話(公衆電話も含まれる:ピンク電話は除く)、災害用伝言ダイヤル(番号は、171、以降は、指示に従う)が有用と考えられる。
災害弱者		災害時に最も不利な状況におかれる人のことで、通常CWAP(シーワップ)とよぶ、小児、女性、高齢者、貧困層/病人)のことをいう。災害時には、特別な手当て(前もって)準備しておく必要がある。
災害時優先電話	災害時でもある程度発信が優先される電話	災害時でも一般家庭の電話よりも、ある程度発信が優先される電話で、公衆電話(ピンク電話は除く)にも適応される。
災害対策基本法	災害から国土・国民を守るための対策を定めた基本的な法律	1962年(昭和37年)に施行された法律で、災害医療を含めた災害から国土・国民を守るための対策を定めた基本的な法律である。防災計画の策定、災害予防、災害応急対策、災害復旧、防災に関する財政金融措置、その他等からなる。
災害対策本部	災害時に対策を決定し、指揮をとる本部	大災害発生時の対策・指揮をとるところで災害発生直後に設立される(通常は、新設される)部門であるが、災害の規模、種別、等によりその役割・内容は大きく異なる。また、設置される場所・所属等も多数となる可能性がある。JCO臨界事故では、政府、県庁、市町村、各防災対策機関、対応にあたる医療施設、JCO工場等で設置されたとされる。

	災害の分類	災害を分類したもの。	災害の分類は、種々あるが、最も簡単なものは、1)自然災害、2)人為災害、3)両者が混ざった複合型、とされる。その他、急性期型と慢性型、都市型と地方型等の分類も、されることがある。
	災害マニュアル	災害時に用いられるマニュアル。	医療施設等、災害医療に関連する部門は、全て平時より準備し、災害訓練等に用いておく必要がある。
	災害用伝言ダイヤル	災害時安否情報に用いられる留守番電話風のシステム	被災地内加入者の電話番号を活用した留守番電話風のシステムで、番号は171+以下指示に従う。災害時にのみ利用可能で、輻輳の可能性は少ないが、知名度はまだ低い。
し	地震	地震動により起こされる自然災害の内の代表的なもの	地球内部でのさエネルギーの蓄積の結果、局地的に、しかも急激に解放されて弾性波動を生じる現象で、そのエネルギーの一部が大地を振動させる（地震動）。地震の規模はマグニチュードで表し、揺れの強度(とそのひろがり)の規模は、地点毎の震度で表示する。我が国周辺は、4つのプレート(ユーラシアプレート、フィリピン海プレート、太平洋プレート、オホーツク(北米)プレート)からなる、世界でも最もプレートの込み合った所である。プレートの境目をトラフ(海溝)といい、太平洋岸で現在、地震発生に関与する可能性が高いとして最も問題となっているものとして、南海トラフ、相模トラフ、駿河トラフ、などがある。(参考: 震度 、 マグニチュード)
	地震のマグニチュード	マグニチュードと同じ	
	自然災害	自然の大きな異変によって地域の自然破壊と多数の死者・傷病者等の被害をもたらすもの	人為(的)災害と対比される言葉である。自然災害の原因となる現象は、地震、風水害、等多々あるが、自然災害のなかには、急激な変化の他、かんばつ(旱魃)のように緩徐におこるものもあり、また地震の際にみられる不適切な建築物による被災度の増大や自然林の過剰伐採などのために生じる風水害・砂漠化のように発生・増悪化に人間の関与が極めて大きいものもある。これらには、人為(的)災害としての要素も加えるべきとの意見もある。
	自然放射線	自然に存在する放射線	地中の放射性物質や宇宙線からなる。自然宇宙線は、放射線測定の際のバックグラウンド値となるので、重要である。地域によって、若干の違いがみられる。(参考: 宇宙線 、 放射線)
	死体検案	死体について医学的に調べることのひとつ	大災害時には、多数の死傷者が発生する。阪神淡路大震災では、死体検案体制が不十分(検案する医師の不足)であり、死者および遺族への個人の尊厳を重視した観点からみると問題を残した。日本法医学会では、その反省のもと、体制の整備につとめている。
	疾病調査	サーベイランス	サーベイランスとはほぼ同意義で、予防または治療の観点から長期的に疾病の進展状況を観察、評価するシステム
	出血性デング熱	デング熱の内の重症型	デング熱ウイルスによって引き起こされるデング熱の内の重症型。突発性高熱、出血、虚脱を伴い致命的となることがある。東南アジア、インドに多発。(参考: デング熱)
	消毒	染性病原体を死滅させること	身体外において化学的(アルコール消毒等)あるいは物理的方法(煮沸消毒等)で、感染性病原体を死滅させること。滅菌は、より徹底的に全ての微生物を死滅させることで、若干異なる。
	食中毒	飲食物を経由したための中毒	食品法では、食品、添加物、器具、容器包装に起因する中毒とされ、細菌類、毒物(自然毒、化学物質毒)で汚染された食物・水等を通常経口的に摂取することによって生じる消化器系の急性の異常病態。
		人為(的)災害	人あるいは社会の活動によって起こされた大規模な災害
	震源地・震源域	地震の起こる最初の起地点の地点あるいはその地域	
	人災	人為(的)災害と同じ	
	シンチレーションカウンター	放射線の測定装置の一つの方式	
	震度(階級)	地震のゆれの強さをしめすもの	我が国で用いられている地震のゆれの強さをしめすもので、段階は震度0～7まで。震度5と6は、強弱に分かれており、全体で10段階になっている。以前は人の感じ(体感震度)に基づいていたが、1996年度の気象庁の見直しにより、現在は震度計の計測値に基づく計測震度になっている。
す	スリーマイル島原発事故(米国)	大事故をきたした原子力発電所のあったアメリカ合衆国の地名	アメリカ合衆国ペンシルバニア州 Harrisburg の近くに位置する小島。ここにあった原子力発電所が1979年3月28日に大事故をきたしたことで有名。事故の規模(事象とよぶ)としてレベル5(周辺に大きなリスクを伴う)とされ、チェルノブイリ原発事故に次ぐ、大きさで、その後の原子力安全対策に大きな影響を与えた。略語として、TMIという。Three Mile Island、(参考: 原子力災害 、 チェルノブイリ原発事故)
せ	生物学的半減期	取り込まれた放射性物質の半分量が排泄される期間	放射性物質が、身体に取り込まれた際は、尿・便中などへ、生理的な代謝によって排泄される。半分量が排泄される期間を生物学的半減期という。これに対して、放射性物質の半分が自然崩壊する時間を放射能半減期(物理的半減期、あるいは単に半減期)という。(参考: 放射能半減期)
	生物兵器	伝染性の細菌や生物毒等を利用する兵器	兵器として、戦争・テロ等に伝染性の細菌・ウイルス・リケッチアや生物毒等を利用するもの。
そ	総合防災訓練	災害の訓練方法の一つ	大規模な災害(医療)訓練をいう。医療施設での訓練では、多くは、発災から、被災患者搬送、トリアージ、緊急処置、その他を行うものである。多数の参加者が加わることによりなされるが、準備・経費等大きな負担がかかることから、頻回に行うことは困難である。また儀式的・形式的となる可能性もあり、注意が必要である。(参考: 机上シミュレーション)

そ	損害予測／被害想定	災害による損害・被害の予測	災害発生以前、発生直後に行われる災害による損害・被害の予測。我が国では、東京直下型地震、東海地震、東南海地震等で、現在予測されており、また主に地震発生直後の予測方式としては、DIS(Disaster information system)等が開発されている。その他、原子力災害時の想定としては、SPEEDIが設置されている。
---	------------------	---------------	--

た

| 0-9・A-Z | あ | か | さ | た | な | は | ま | や | ら | わ | ↑

	用語	説明	解説
た	耐震建築物	地震に耐える構造の建築物	更に地震の振動を減らして地震への強度を高めるためにゴムやバネなどを用いた建築物は、免震構造と呼ばれる。
	退避	危険をしりぞいて避けること	言葉としては、危険をしりぞいて避けることで、原子力災害時は、避難計画の一部に想定される。東海村臨界事故では、10km圏内の住民は、自宅での屋内退避を指導された。
	台風・ハリケーン	熱帯低気圧の発達したもの	台風とよばれるものは西太平洋で発生した毎秒約17m以上の最大風速を伴うもので、ハリケーンは、大西洋と東太平洋で発生した毎秒約33m以上の最大風速のもの。インド洋に発生したものをサイクロンとよぶ。風水害の原因として最も重要。
	タグ	災害時に用いられる下げ札	下げ札、荷札等のことであるが、災害時は、トリアージタグのことを意味することが多い。(参考: トリアージタグ)
	炭疽	炭素菌によって生じる動物の伝染性疾患	接触、経口、吸引によって人にも罹患する。CDCがバイオテロとして最も重視する疾患の一つであり、また2001年の米国同時多発テロ後にもバイオテロとして用いられ問題となった。
ち	チェルノブイリ原発事故	史上最大の規模・長期間の被害を残した原子力発電所事故	当時のソ連邦、現在ウクライナ地方の町で、1986年第4号原子炉の大爆発事故によって地球規模での広範な放射能汚染を生じ、多数の死傷者と環境破壊を生じた。現在も周辺の放射能汚染は残存し、公式には30km半径内は、住民の居住は認められていない。史上最大の規模・長期間の被害を残した事故である。Chernobyl、(参考: スリーマイル島)
	地下鉄サリン事件	毒ガスのサリンによる東京での事件。多数の被災者が発生した	有機燐系の毒ガスのサリンが、1995年3月に都心でまかれた事件。十名以上の死者、5千名以上の負傷者が発生した。医療従事者、警察官・消防隊員等の救助にあたったものも多数2次災害として、汚染されたことでも問題となった。
	中性子	原子核の構成する物質の一つ	原子核の構成する物質である。原子力災害では、臨界状態で発生し、遮蔽が困難である。JCO臨界事故で発生・漏出し、問題となった。
つ	つなみ・津波	地震や火山の爆発などにより海面に高い波が作られること	地震や火山の爆発などにより海面に高い波が作られ、そのため海岸に大きな人的・物的被害を引き起こす。代表的な我が国の被災した例としては、最近では1993年北海道南西沖地震で奥尻島で死者200名以上と多数の死者が発生したが、歴史的には1896年明治三陸地震、1707年宝永東海・南海地震、1498年明応東海地震で死者2万名以上とされ、関東大震災を除くと死者数の最も多い地震災害の形をとる。
て	鉄砲水	極めて短期間に発生する局地的な洪水	洪水の一種で、通常特に局地的な豪雨によって生ずる河川の急激な水量増加により土砂等を伴いながら堤防を決壊するなど、極めて急激に発生する局地的な洪水。我が国でしばしばみられる。諸外国で多い長期間を経過して水位の上昇する洪水とは、大きく異なる。
	テロリズム	多くは、政治目的のために暴力に訴え、あるいは脅すこと	テロリズム(またはテロ)としては、あらゆる手段が考えられるが、爆弾、NBCテロが被災者に対する医療対応上は重要である。また被災者の精神的ケアも重要である。
	デング熱	ウイルス疾患のひとつ	カの媒介による代表的なウイルス疾患のひとつ。急激に発生する急性発熱性疾患で頭痛、発熱、虚脱、腺腫、関節筋肉痛、皮膚疾患をともなう。重症形が、出血性デング熱。Dengue(参考: 出血性デング熱)
	天然痘	痘瘡ウイルスより起こされる重篤なウイルス疾患	痘瘡ウイルスの感染により起こされる感染性の高い重篤なウイルス疾患。人から人への伝染性があり、空気感染も認める。全身に発疹をきたし、治癒後もあばたを残す。対策としてジェンナーにより牛痘ワクチンが開発された。ワクチンが奏効し、1980年WHOによる絶滅宣言がなされた。現在は、バイオテロとして使われることがおそれられている。
と	トリアージ	多数の負傷者等を緊急度・重傷度に応じ優先順位を決定する	元来は、えり分ける、分類するというフランス語から来た言葉で災害医療でしばしば用いられる用語。フランス語読みでトリアージュともいう。災害医療上は、多数の負傷者・疾病患者が、同時発生した際に、救急医療の現場などで患者の緊急度・重傷度に応じ、医療体制・設備を考慮し、治療や搬送先の優先順位を決定する。このために用いられる用紙(タグ: triage tag)がある。トリアージを行う責任者をトリアージオフィサーとよび、医療施設では、医師が、行うことがおおく、災害現場では、救急救命士が担当することが多い。この考えを広げて、特に欧米では、非災害時でも、複数の患者が同時に救急外来を受診したときに優先順位をつけることもトリアージと呼び、その際は、責任看護師があたることが多い様である。
	トリアージタグ	トリアージに用いられるタグ	

な

| 0-9・A-Z | あ | か | さ | た | な | は | ま | や | ら | わ | ↑

	用語	説明	解説
な	内部被ばく	体内の放射性物質によって放射線に被ばくすること	放射線に生体がさらされる状態の内の一つで、体内に取り込まれた放射性物質によって放射線にさらされること。放射性物質(放射能を出す物質)が、呼吸や燕下(飲み込み)、傷等から体内に入って、体内から放射線にさらされることを内部被ばくという。これに対し、体の外から放射線が体内に通過することは、外部被ばく。(参考: 外部被ばく)

に	ニパウイルス	マレーシアで発生したウイルス	1998～1999年にかけて、マレーシアで発生した日本脳炎ウイルスに近縁とされるウイルスで、豚を介して、人にうつり、100名以上が死亡した。ウイルスが同定されたクアラランブール近傍のニパ村の名前から付けられた。本疾患の蔓延のため、マレーシアの養豚業が全滅したこととしても重要である。(参考: ウイルス)
	日本中毒情報センター	化学物質に関する情報提供を業務とする施設	財団法人で、化学物質に関する情報提供を主たる業務とする施設で、東日本(つくば市)、西日本(大阪市)に各1カ所ある。治療施設は有しない。

は

| 0-9・A-Z | [あ](#) | [か](#) | [さ](#) | [た](#) | [な](#) | [は](#) | [ま](#) | [や](#) | [ら](#) | [わ](#) | [↑](#)

	用語	説明	解説
は	バイオテロ	生物毒を用いたテロ	
	パニック	群衆の混乱や個人の混乱状態	災害や予想外の悪いできごとにあった際に起こる群衆の混乱や個人の混乱状態をいう
	ハリケーン	熱帯低気圧の発達したもの	北大西洋西部・北太平洋東部に発生する熱帯低気圧(米国・北アメリカ大陸におけるもので、我が国の台風)の発達したもの
	晩期影響	放射線による生体影響のしきみのひとつ	放射線による生体への影響で、日時がたってから出現するもの。
	阪神淡路大震災	兵庫県南部地震による災害	1995年1月に発生した兵庫県南部地震による災害で、死者6000名以上と第2次世界大戦後の我が国で最大の死者を伴った。負傷者4万名以上とされる。死者の約90%は、家屋の崩壊による即死と推定されている。(参考: 兵庫県南部地震)
	半数致死量	半数を死滅させる中毒物質や放射線の量	人間・動物の半数を死滅させる中毒物質や放射線の量でLD50と示す
ひ	非政府団体	NGOと略す。私的な組織である	NGOと略す。政府組織とは異なる、私的な組織であるが、国際的組織として大きな組織もあり、災害対応にも活躍している。特に公的な施設・機関が活動しにくい分野において重要な役割を担う。我が国でも医療部門においてもAMDA、MeRUなどがある。
	避難	危険を避けて他の場所へ逃れること	危険を避けて他の場所へ逃れることであるが、原子力災害時は、住民の避難計画の一部に加えられている。なお1999年の東海村臨界事故では、350m以内の住民は、近傍に避難を指示された。(参考: 退避)
	病院災害対応マニュアル	病院・医療施設における災害時の医療対応マニュアル	病院・医療施設における災害時の医療対応マニュアルとして、特に災害拠点病院においては災害時の円滑な医療対応を可能とするために、準備することが望まれている。(参考: マニュアル)
	兵庫県南部地震・阪神淡路大震災	淡路島北端を震源とし平成8年起こった大地震	兵庫県南部地震は、淡路島北端を震源とし、平成8年(1995年)1月17日未明(午前5:46分)起こったマグニチュード7.2の大地震、野島断層が地表に現れたことでも有名。その結果起きた災害を阪神淡路大震災という。(参考: マグニチュード 、 活断層)
ふ	輻輳	1カ所にももの等が集まり、混乱すること	災害時に問題となることとしては、電話のラインの輻輳により、実際は利用できないことがしばしばみられることである。
	フラッシュバック	flash back、(主に悪い昔の)記憶・状況を突然思い出すこと	昔の悪い記憶・状況を突然思い出すことで(体験状況の再現)あり、災害被災者にもしばしばみられる。PTSDの症状の一つ。覚醒剤中毒でもしばしばみられるとされる。(参考: PISD)
	プリオン	感染性病原体の一つ	感染性病原体で、DNA、RNAも認められないタンパク質のみによる感染をきたす疾患である。牛の海綿状脳症(狂牛病)やひつじ・やぎのスクレイビー病、人のクロイツフェルトヤコブ病の病原体とされる。有効な治療法は現在ない。災害医療の観点からは、牛と人との関係が問題となっている。
	ブルーム	放射性物質や化学物質を含んだ気体(煙)	本来は、煙・雪煙が空中にあがった状態のことで、災害用語として用いる際は、放射性物質や化学物質を含んだ気体(煙状)が空中に雲状に舞い上がり、拡散することをいう。
へ	ペスト	ペスト菌により起こされる伝染性疾患	ペスト菌により起こされる死亡率の高い伝染性疾患で、感染したねずみなどの齧歯類についた「のみ」によって媒介される。中世のヨーロッパでは黒死病としておそれられた。リンパ腺に感染する腺ペスト、肺ペスト等がある。我が国には、発生していない。
ほ	放射性降下物	放射線を出す塵・死の灰	核爆発等の原子力災害でのいわゆる死の灰のこと。チェルノブイリ原発事故では、極めて広範囲に放射性物質による汚染が広がり、その後の甲状腺ガン多発に関係しているとされる。
	放射線	放射性元素から放射されるものα、β、γ線等がある	放射線には、数多くあるが、代表的なものは、α線(ヘリウムイオン)、β線(電子線)、γ線・X線(電磁波)、中性子線である。広義には、種々の粒子線・電磁波・宇宙線も含む。α線、β線は放出されても透過力が弱く、体外にある際は大きな障害を起こしにくい。α線は放出する物質が体内にはいると(内部被ばく)障害を起こしやすい。(参考: 内部被ばく)
	放射線医学総合研究所	放射線医学の研究・診療にあたる施設	旧科学技術庁、現文部科学省に所属する総合的放射線医学の研究・診療にあたる施設で、千葉市にある。原子力災害時は、第3次被ばく医療の中心的役割を担う。F61(参考: 緊急被ばく医療)

放射線障害	電離した放射線により引き起こされる生体への障害	幾つかの観点から分類される。放射線による障害されやすさ(放射線感受性)に関しては、分裂の盛んな細胞ほど障害を受けやすく、組織として骨髄が最も障害されやすい(1グレイ〜)。また発症時期からみて、早期障害、晩発的影響:発ガンが代表的疾患、遺伝的影響としての分類、被ばく量と障害のおこりかたとの関係から確定的影響、確率的影響という分類、もなされている。遺伝子解析では、250mグレイ程度で検出可能・・・(参考: 確定的影響 、 確率的影響)
放射線被ばくに関する単位	ベクレル、クーロン、グレイ、シーベルト	種々の単位が目的別に用いられる。ここでは、項目のみ提示する。ベクレル(キュリー)、クーロン(レントゲン)、グレイ(ラッド)、シーベルト(レム)。かつこ内は、旧来の呼び名。(参考: 放射線)
放射線防護の三原則	1)遮蔽、2)距離、3)時間	放射線災害時の被ばく量を軽減するための三原則
放射能	放射線を放出する物質またはその現象	
放射能半減期	放射性物質の半量が崩壊する時間。	プルトニウム239は、24,000年。ヨウ素131(I131)は、8.021日で、各放射性物質によって一定であり、放射性物質の減衰を計算できるので、原因物質の判明した放射性物質の汚染時には、重要である。物理的半減期ともいう。これに対して身体に取り込まれた際は、生理的な代謝によっても排泄される。これを生物学的半減期という。[参照] 生物学的半減期
ポケット線量計	放射線被ばくの線量をみる機器、小型、個人用のもの。	
ボランティア活動	無報酬(あるいは低報酬)で、自発的に活動すること	ボランティアとは、志願者という意味で、無報酬(あるいは低報酬)で、自発的に活動すること。災害時は、重要な役割を担う。(参考: NPO 、 NGO)

ま

| [0-9](#)・[A-Z](#) | [あ](#) | [か](#) | [さ](#) | [た](#) | [な](#) | [は](#) | [ま](#) | [や](#) | [ら](#) | [わ](#) | [↑](#)

用語	説明	解説
マグニチュード	地震全体の規模を表す数値	震源のエネルギーの大きさを示す。マグニチュード1の違いは、約30倍である(マグニチュード2の違いで1000倍)。関東大震災はマグニチュード7.9、兵庫県南部地震は7.2であった。地震被害の大きさ・広がり、種々の要因によって影響されるが、一般的に我が国にあてはめるとマグニチュード7程度では、一つの県を占める規模、マグニチュード8では、数県にまで拡大すると考えられている。なお、我が国では、気象庁マグニチュードと国際標準のモーメントマグニチュードが用いられている。
マニュアル	災害時の(医療部門等の)各部門の動きをガイドするもの	マニュアルとは、災害医療の観点からは、災害時の医療部門の動きをガイド・指示するもので、ガイドラインとほぼ同様の意味で用いられる。阪神淡路大震災では、医療施設としてマニュアルを作成していたところは、極めてわずかであるが、現在では、災害拠点病院のアンケートでは、70~80%で準備していると考えられる。(参考: 病院災害マニュアル)

や

| [0-9](#)・[A-Z](#) | [あ](#) | [か](#) | [さ](#) | [た](#) | [な](#) | [は](#) | [ま](#) | [や](#) | [ら](#) | [わ](#) | [↑](#)

用語	説明	解説
養生	汚染拡大を防ぐために、壁面・床等に防護体制をとること	一般の医学的な意味では、健康の増進をはかること・病気や病後の回復をよくすることであるが、災害医療、特にNBC災害のような汚染を伴う災害時には、建物・乗り物内での周囲環境へ(汚染した患者や物品からの)汚染拡大を防ぐために、壁面・床等にカバー・ビニール・壁紙等をかけて防護体制をとることに用いられる。

ら

| [0-9](#)・[A-Z](#) | [あ](#) | [か](#) | [さ](#) | [た](#) | [な](#) | [は](#) | [ま](#) | [や](#) | [ら](#) | [わ](#) | [↑](#)

用語	説明	解説
ライフライン	上・下水道、電気、ガス、電話などの都市生活に重要なシステム	直訳すると命綱(いのちづな)であるが、災害時には、(現在の都市での)生活に欠くことができない水道(上水道・下水道の両者)・電気・ガスなどの重要な供給システム、広い意味では、電話も含める。特に都市で、地震、洪水等の広範囲の地域を直撃する大災害では、長期間のライフラインの途絶が起ころうので、重要である。
リシン	ヒマの種子に含まれる毒素	多くの植物が毒素を産生しているが、リシンは、ヒマの種子に含まれる毒素であり、その毒性の機序が判明しているものである。現在テロに用いられるおそれが考えられている。
臨界事故	原子核分裂の連鎖反応が起きている状態	ここでいう臨界とは、原子爆弾や原子炉等で、核分裂の連鎖反応が起きている状態で、最近の臨界事故としては、1999年9月に東海村JCO工場が発生し、中性子・γ線が放出された。
ロジスティクス	災害時の物流の調達・管理システム等のこと	Logistics、日本語では兵站(へいたん)と訳される。一般的には、物流の調達・管理システムのこと(材料調達→生産→在庫管理→販売、等)であるが、災害時は、災害時の緊急支援体制としての後方支援を幅広く意味し、有効な災害時活動には必須の重要項目である。

用語	説明	解説
わ ワクチン	生体に対し感染性疾患に対する抗体を産生させるための薬剤	薬品の一種で、細菌やウイルス・寄生虫による感染性疾患の予防を目的とし、生体に投与することにより感染性疾患に対する抗体を産生させる薬剤。人、家畜等に用いられる。注射・経口のルートによる。

編集協力:国立病院東京災害医療センター 臨床研究部